四つ足堂

琴南地区　勝浦

香川、徳島県境の真鈴峠や滝ノ奥峠（滝ノ奥越）から徒歩で1時間ほど下った旧阿波街道※1沿いに、茅葺※2の素朴な茶堂※3が建っています。人々はこの茶堂を四つ足堂と呼んでいます。歩いて旅をしていたその昔、旧阿波街道沿いのこの茶堂は旅人の休憩所、周辺住民の社交場、信仰の場として利用されていました。

四つ足堂が最初に建てられたのがいつ頃かは不明です。現在の建物は、明治初め頃の火事の後に建て替えられたもので、当時の古い様式を残しています。

茶堂は二間四方※4で、北側正面にお地蔵さんを祀り、三方は吹き抜けになっています。正面に祀られたお地蔵さんは、石臼※5を台座にしていることから、「粉ひき地蔵」と呼ばれています。現在は床が張られていますが、建て替えられる前までは土間※6に囲炉裏※7があり、そこにいつも茶釜※8が掛かっていて、旅人が一服※9のお茶にのどを潤し、旅の疲れを癒したというはなしです。

車社会となった今では街道の往来もなくなりましたが、四つ足堂は賑わってい

四つ足堂　全景　南から　平成18年4月26日撮影

たころの昔話とともに、地元の方々に守られ静かに佇んでいます。

昭和 55 年 12 月 12 日、国によって記録作成等の処置を講ずべき無形の民俗文化財として「讃岐の茶堂の習俗」に記録されました。

粉ひき地蔵の伝説

昔、この辺りには大きな木が生い茂り、近くに淵※10がある恐ろしいところでした。旅人が通りかかるとお化けが出てきて「相撲をとらんか」としがみついてきました。知らん顔をして通り過ぎるのが良いのですが、うっかり相手をすると、へとへとになるまで負かされ続けて動けなくなりました。

そんなある朝、村人がここを通りかかると、道端にお地蔵さんが転がっていました。よく見ると大川山※11から転げ落ちてきたお地蔵さんだったので、担ぎ上げましたが、翌朝また転がり落ちていました。村人たちは、お地蔵さんはここにお出になりたいのだと思い、お堂を建ててお祀りすることにしました。それ以来、お化けは出てこなくなりました。

粉ひき地蔵　平成 26 年 7 月 14 日撮影

昔の街道

四つ足堂は金比羅参り、お遍路、行商※12など様々な地域の人々が集まってくる場所でした。徳島からは借耕牛※13が多いときで 500 頭も往来しました。香川

四つ足堂から道が分岐していた集落

では県境に近い八峰、瓜峯、家六、真鈴、下福家の人々が行き来し、そこに住む子供たちにとっては通学路でした。学校からの帰りに、ここから別々の道を帰っていく友達と、茶堂で宿題をしたり、鬼ごっこなどをして遊んだりした場所なのです。

※1 金比羅参りのために発展した阿波（徳島）から続く道。 ※2 ススキやチガヤ、ヨシなどを材料にして造られた屋根。 ※3 道沿いに建てられた小さなお堂。誰でも立ち寄ることができ、旅人の休憩場所、村人の憩いの場として利用されました。 ※4 柱と柱の間が2つで四角い間取り。 ※5 石でできた臼。穀物などを挽いて粉にします。 ※6 家の中で土足のまま入ることのできる部屋。 ※7 暖を取ったり調理をしたりするために、部屋の中に造られた薪や炭を熾せるスペース。 ※8 お茶を淹れるためのお湯を沸かす釜。 ※9 お茶を1回飲むこと、一休み。 ※10 川の流れが緩やかで深くなっているところ。 ※11 山頂は四つ足堂から北西へ 3.9km。標高 1042.9m で香川県で 2 番目に高い。 ※12 店を持たず、商品を売り歩く人。 ※13 農繁期に牛を借り、米で支払うやりとり。

※5 石臼

※7 囲炉裏

令和3年1月作成

まんのう町教育委員会 生涯学習課 文化財室　〒766-0202 香川県仲多度郡まんのう町中通 875 番地 琴南公民館内
電話（0877）85-2221　FAX（0877）85-2826